

伝えたい 残したい

20世紀 のうしく

問 文化芸術課(牛久シャトー内) ☎874-3121

造成中の刈谷団地

昭和47(1972)年



写真② 平成29(2017)年3月撮影



写真① 昭和47(1972)年撮影

写真①は、造成中の刈谷団地の様子を撮影したもので、写真の奥にはつつじが丘団地が見えます。

刈谷団地は、昭和45年度から同54年度にかけて行われた刈谷土地

区画整理事業により、誕生しました。元は山林であった丘陵地帯に、道路、公園、上下水道、汚水処理場および都市ガス等が整備され(写真②)、牛久駅西口地域の発展に貢献しました。



「昔のうしく」の写真(とくに昭和40年代までの写真・東部地区の写真)を募集しています。

里山の樹木

問 都市計画課
☎内線2524

第61回 ヒイラギ



- ①開花期の樹冠:刈谷町1丁目の庭木(平成19年11月17日撮影)
- ②葉:遠山町個人屋敷入口(平成20年11月10日撮影)
- ③成熟前果実:牛久自然観察の森(平成23年5月18日撮影)

モクセイ科キンモクセイ属の常緑小高木で、関東地方〜沖縄に分布。市内では、雑木林などにまれに自生する他、庭木や生垣に多く用いられています。葉は楕円形または卵形、厚くて硬く、表面には光沢があります。若木の葉には刺状の粗い歯牙があり、古木では消失します(画像②)。雌雄異株。花は11月ごろ葉腋に束になって咲き、小さく白色で芳香があります。果実は長さ12〜15mmの楕円形(画像③)、翌年の7月ごろ黒褐色に熟します。名前は葉の歯牙に触れると、ひりひり痛むことに由来。昔からヒイラギの葉の鋭い歯牙が、魔よけになると信じられて、屋敷の入口に植えたり、節分にイワシの頭とヒイラギの枝を家の出入口に飾る風習があります。

※牛久の里山樹木ハンドブック67ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森(☎874・6600)まで。

【資料提供】NPO法人うしく里山の会
(文章:石川満夫、写真:①③渡辺泰、②戸塚昌宏)

文芸さろん | 睦月 |

密をさげだいぶ遅めの初詣
凍れるな炬燵で皆が鍋囲む
どの尾根も肩を休めて山眠る
枝打ちつ痛かあないか労りて
冬来る春はまだかどつくしんば
新玉の春を迎えて太陽に
願をかけるは我が家の福を
紅白の蕾の数をかぞえつつ
丑の年幸せ笑顔来る年に
⇒(う・し・くを詠み込んでみました)

山崎さん
ひとしくん
高階さん
堀さん
月田勉さん
わだちやん
匿名希望
長沢さん

〈次回募集テーマは「冬」〉

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など
【あて先】〒300-1292 牛久市中央3-15-1
「広報うしく文芸さろん」係 FAX:873-2512
☎kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp
【記載事項】作品、氏名、電話番号
匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)



※掲載作品は担当課にて審査の上、決定します。投稿いただいた作品が必ず掲載されるわけではありません。